

# ～マンドリンのまち前橋～ 朔太郎音楽祭 2022 マンドリン オーケストラ 演奏会

## 朔太郎音楽祭

2006年(平成18年)は前橋市が生んだ詩人、萩原朔太郎の生誕120年でした。朔太郎は自分でもマンドリン用の曲を作曲するなど、マンドリンをこよなく愛していました。そこで、朔太郎とマンドリン音楽の融合を図りマンドリンを前橋市の文化として定着させることなどを目的として「前橋マンドリンフェスタ2006」を開催しました。

2007年(平成19年)以降は、名称を「～マンドリンのまち前橋～朔太郎音楽祭」と改め、さらなる「マンドリンのまち前橋」の発展に努めています。音楽祭10周年を迎えた2015年には、マンドリン音楽の第一人者青山忠氏が音楽監督に就任し、高校生の部、一般の部と二つのマンドリンオーケストラを結成して、より高度な演奏を目指しています。

今年も新型コロナウイルスは猛威を振るっていますが、感染症拡大予防に万全の対策を講じながら、マンドリン演奏を中心とした音楽祭を通じて前橋の文化芸術に貢献するという使命のもとに、本年の音楽祭を開催してまいります。



## 萩原朔太郎

明治19年(1886年)～昭和17年(1942年)。詩人。父密蔵は前橋の開業医。前橋中学校時代に従兄弟である萩原栄次から短歌の手ほどきを受け文学の道に入りました。卒業後、熊本の第五高等学校、岡山の第六高等学校に進んだが中退。後に詩に転向し、大正6年、第一詩集『月に吠える』によって、日本近代詩に不滅の金字塔を打ち立てました。朔太郎の詩業は、近代的思想を感覚的に書き上げ、わが国における口語自由詩を確立しました。『青猫』『氷島』などの詩集のほか、多くの評論集があります。

## マンドリンと朔太郎

前橋中学に在学中だった萩原朔太郎は、父から貴重な輸入マンドリンを買い与えられます。前橋中学卒業後、熊本五高などを中退し東京での生活を送りますが、その間、マンドリン指導者・比留間賢八らにマンドリン・ギターを習いました。やがて帰郷し音楽と詩作活動を併行して展開、朔太郎は前橋で音楽愛好家を集め「ゴンドラ洋楽会」(のちの「上毛マンドリン俱楽部」=群馬交響楽団設立母体のひとつ)を設立し、再び上京するまでの10年間自ら指揮者として県内各地で熱心に演奏活動を行いました。朔太郎は群馬におけるマンドリン音楽、ひいてはクラシック音楽の先駆者でもあったのです。

同時  
開催

あの頃の懐かしい「時」が目の前に

## 「前橋原風景写真展」

～アマチュアカメラマン井上道夫が遺した昭和の風景～

観覧  
無料

10月20日[木]～23日[日] 10時～17時

昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）  
小展示ホール

お問い合わせ

～マンドリンのまち前橋～朔太郎音楽祭実行委員会事務局

〒371-0022 前橋市千代田町 3-12-10 水と緑と詩のまち前橋文学館内 TEL:027-235-8011

音楽監督・指揮 青山忠 Tadashi Aoyama

2015年より朔太郎音楽祭音楽監督。NHK交響楽団、読売日本交響楽団など日本の主要なオーケストラと多数共演。熊川哲也主宰 Kバレエカンパニー公演「ロミオとジュリエット」に参加。映画では、「クローズド・ノート」「スノープリンス 禁じられた恋のメロディ」「奇跡のリング」「風立ちぬ」などの劇中にマンドリンやバラライカを演奏。

テレビでは、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲2」や、NHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」などの劇中にマンドリンを演奏。シンガーソングライター山梨謙平、歌手石野真子のライブやレコーディングに参加。2013年、2019年に久石譲&ワールド・ドリーム・オーケストラのコンサートにゲスト奏者として出演。全日本マンドリン合奏コンクール審査員を務める。マンドリン合奏団の指導や楽譜の出版にも力を注ぐ。これまでに27枚のCDをリリースしており、今年4月にリリースされた「弦色浪漫 (げんしきるまん) 17巻」も好評発売中。



オペラ歌手・バリトン 今井俊輔 Syunsuke Imai

東京藝術大学大学院修了。その後イタリアへ渡り研鑽を積む。2013年ライツツィヒとの提携公演「マクベス」マクベス役でデビュー。以降「トスカ」スカルピア、「外套」ミケーレ、「アイーダ」アモナズロ、「ファルスタッフ」ファルスタッフ等、多くのオペラに出演。劇場を包む声量と明るく倍音の豊かな響き、かつ黒く深い音色で聴衆の耳を掴む

バリトンであり、卓越したテクニックと表現力のいずれもが絶賛され、国内外の指揮者やオペラ演出家からも評価が高い。2003年よりBS日テレ「BS 日本・こころの歌」にコーラスグループFORESTAとして活動。2,000曲近い曲目をレパートリーとして納めている。また親しみやすいトークを交えたソロコンサートでも多くのファンを魅了している。第19回2021年度上毛芸術文化賞受賞。東京二期会会員。オフィシャルウェブサイト&後援会<https://imaishunsuke.jp>



ピアノ 渋川ナタリ Natali Shibukawa

ドイツ人の父と日本人の母のもと前橋市に生まれる。前橋女子高校、東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。国際ロータリー財団国際親善奨学生及びPossehl財団奨学生としてドイツ留学し、リューベック音楽大学大学院を修了。Brahms Festival, Oberstdorfer Musiksommer等、ドイツ各地でソロと室内楽の演奏活動を行う。帰国後、東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士(音楽)。ソロリサイタルやオーケストラとの共演、声楽や器楽との共演に加え、美術やバレエなど異分野の芸術とのコラボレーションも積極的に行っている。2019年に1stアルバム『母から子に贈るやすらぎのクラシックピアノ小品集』をリリース。群馬出身の音楽家たちによる演奏団体MusicaConcad'oro、デュオ・フェアデ、トリオ・フェアデ各メンバー。地元に根差した活動も積極的に行っている。現在、東京藝術大学非常勤講師。日本クラシック音楽コンクール、セシリ亞国際音楽コンクール等の審査員を務める。

